

学院創立 110 周年にあたって

学院長 木川田 一 郎

今年、創立 110 周年を迎えるにいたった本学院は、1884（明治17）年に英国聖公会宣教協会（C. M. S.）の創立によるミッションスクールとして大阪の川口居留地の教会内に発足しました。多くの困難に面しながらも明治時代にはすでに英語の桃山として発展し、戦後、1959年に大学の開学を見、1993年には大学院も設置されるにいたりました。その間、英国風の自由と理性を尊ぶ校風が培われてきましたが、明年、学院創立 111 周年の 4 月には関西国際空港により近いトリヴェール和泉地区に大学キャンパスが全面移転し、教育と研究の場が格段に整えられる事となりましたことは、誠に感謝に堪えないものがあります。

このような時に本大学総合研究所から諸分野の紀要が学院創立 110 周年記念号として発行されることは大きな喜びであります。それは学問研究の成果を世に問うことでありますが、同時にこのような知的活動が盛んに行なわれることが、多くの変革を求められているこの時代における新しい人間形成と世界の形成にとって重要な意味を持つことは当然のことです。私共は学院創立の源であるイエス・キリストが教えられた“主の祈り”のようにいつも神の国の実現を待ち望み、神の愛と正義の御心が行なわれ、日毎の食物が与えられ、共に生きる世界の実現を切に待ち望んでおります。そのために人が互いに赦しあい、和解しあい、共に働いて、新しい平和な世界づくりに参画したいと望んでいるのであります。このような目標に向かう絶えざる知的な作業の積み重ねが、今日における新しい社会や世界構築の概念を提供していくことに大いに役立つでしょう。

一人一人の人権が尊重され、互いに仕え合って、心に感謝や感激を覚える

ことによって心が豊かにされ、教育や研究の知的作業は進展し、或いは自由な教育や学問の新しい分野が開拓されてゆくのでありましょう。大学とその知的活動は、今後の世界にとっても、人類の将来にとっても、極めて重要なものであります。

以上のような視点から、本大学の諸紀要の発行が大方諸賢の目にとまりお役にたつことを願って止みません。